

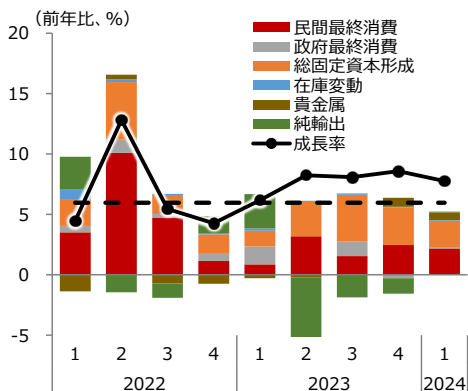
インド

GDP (2024年1-3月期)

高成長を継続、新連立政権による政策軌道修正の行方に要注目

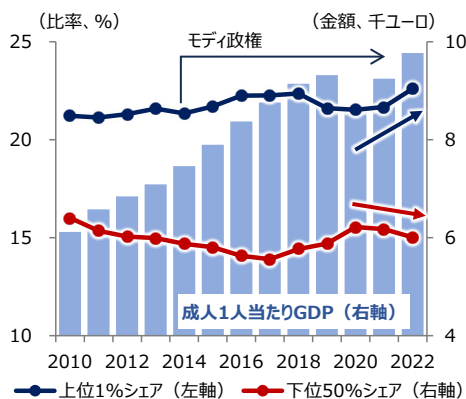
政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 実質GDP成長率



注：棒グラフ合計と線グラフの差は、統計誤差。破線は17-19年の平均。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

2 成人1人当たりGDP・所得階層別シェア



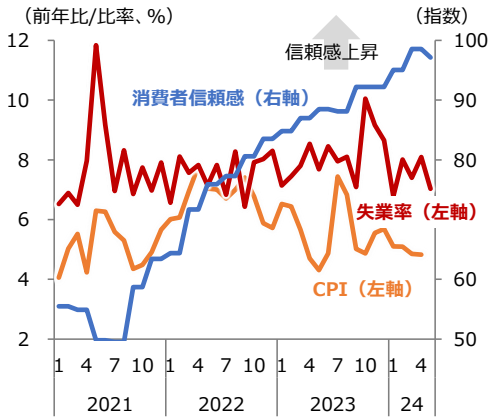
注：直近は2022年。
出所：World Inequality Databaseより三菱総合研究所作成

3 生産見通し



注：生産見通しはインド中銀が3か月毎に実施しているサーベイ。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

4 消費者信頼感・失業率・CPI



注：直近は、消費者信頼感、失業率は24年5月、CPIは同4月。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年1-3月のインド実質GDP成長率は前年比+7.6%となった。23年10-12月期の同+8.4%から成長の勢いは鈍化しているものの、総固定資本形成、民間消費をけん引役とした成長基調は継続している（図表1）。
- GDP統計発表後開催の金融政策決定会合声明で、インド中銀は24年度の実質GDP成長率を+7.2%（23年度実績同+8.2%）と予想している。

今後の注目点

- 先頃終了した総選挙で、モディ首相率いるインド人民党が単独過半数を割り込んだ。地域政党との連立によりモディ3期目政権が発足したものの、これまでのようなトップダウン型の政権運営が難しくなると見込まれている。
- インド人民党苦戦の背景に、モディ政権が志向してきた大企業寄り政策の恩恵が届かない農村部などの不満がある。14年のモディ政権発足以降、成人1人当たりGDP拡大と並行して増加基調にあった総所得に占める所得下位層シェアは、コロナ危機以降、低下基調に転じている（図表2）。モディ3期目政権は、政権安定化に向け大企業寄り政策の軌道修正を求められる可能性がある。
- 24年に入り増産を見込む企業割合が低下しており、総選挙前から生産拡大の勢いに陰りがあった（図表3）。新政権による政策の軌道修正が加わることで、23年後半から続いてきた生産拡大が踊り場に入るおそれがある。
- もっとも、市場拡大への期待、地政学上の重要性に着目した国内外資本による活発なインド投資は継続が見込まれる。インフレ圧力緩和、失業率低下のもと消費者マインドも高水準にある（図表4）。拡大ペースは鈍化したとしても総固定資本形成、民間消費をけん引役とした経済成長は継続が見込まれる。
- 24年度の実質GDP成長率は、インド中銀想定の前年比+7%程度の成長を確保できるであろう。先行き、モディ3期目政権の経済政策が、成長軌道を損なうことなく、成長の恩恵を農村部などへ波及させ裾野の広い消費基盤を確立できるかに要注目だ。